

<平成24年2月17日記者会見 市長コメント>

平成24年度予算の編成作業が、このほど終了いたしましたので、その概要についてご説明いたします。

予算編成方針では、第六期総合計画の推進と公約実現、市民実感度向上に向けた取り組み、市政の諸課題への対応のほか、今日の社会状況を鑑みまして、

「元気で活力のある地域経済をつくる」

「未来（あす）を担い輝くひとをそだてる」

「安全安心で人にやさしい暮らしをまもる」

の3つの重点を示しました。

予算編成にあたっては、段階ごとに検討経過を確認し、私の考え方を反映させる場面を設定するなど、これまでの手法の見直しを行ったうえで、本格実施初年度である政策・施策評価の結果を踏まえつつ、各部と十分に論議を交わしながら、全庁一丸となって取り組んでまいりました。

限られた財源の中での大変厳しい予算編成でありましたが、各種事業の優先度・緊急度を考慮しながら、様々な分野に目配りした、バランスの取れた予算になったと思っています。

それでは、お手元の資料「平成24年度予算重点施策」をご覧ください。

この資料につきましては、予算編成方針でお示した3つの重点に基づき、平成24年度予算を整理したものです。

順次、この資料に沿って、主な事業を中心にご説明いたします。

なお、フードバレーとかちの取組につきましては、あらゆる分野での関連性がありますので、別の資料により説明させていただきます。

はじめに、「元気で活力のある地域経済をつくる」であります。

まず、産業振興につきましては、農業生産基盤整備や市有林の造成など継続的な取り組みを含め、将来に渡り様々な環境の変化に対応できる持続的、安定的な地域農林業の発展を図ってまいります。

一方で、現在の地域経済の状況は、持ち直しの動きも見られますが、景気の下支えのため、一定規模の公共事業量の継続的な確保が必要と判断し、季節労働者の雇用対策を含め、景気対策事業として15億1500万円の事業費を計上いたしました。

事業内容についても、広範な事業者が受注できるよう、住宅リフォーム助成事業を新たに実施するほか、幅広くかつ的確な時期に事業が行き渡るよう、規模・発注時期に配慮した事業配分としております。

帯広・まちなかへの集客につきましては、道東道の開通など十勝・帯広への交通アクセスの利便性の向上や移動時間の短縮など、観光を取り巻く環境が改善したチャンスを活かし、観光客誘致を行ってまいります。

つぎに、「未来（あす）を担い輝くひとをそだてる」であります。今年、明治16年の晩成社入植から開拓130年、また、市制施行から80年の節目を迎えたことから、記念式典や学校と地域が一体となった記念行事のほか、（仮称）フードバレーとかちマラソン、フードバレーとかちフェスティバルなどを開催し、帯広の歴史を振り返りながら、子どもたちに夢と元気を与えることをテーマに実施してまいります。

また、人や企業などが集まる高等教育周辺環境づくりを進めるため、帯広畜産大学などとの連携を推進するほか、子育て支援として、こどもの発達に関わる相談・支援の充実を図るための（仮称）こども発達相談室の設置や児童保育センターの入所児童数の増加に対応するため、新たに分室を3カ所設置するほか、全ての公立保育所で延長保育を実施するなど特別保育事業の充実を図ります。

教育・スポーツ体制の充実につきましては、新学習指導要領への対応を図るため、武道の必修化による用具の整備や小学校の外国語活動に対応した講師派遣体制の拡充を行うほか、教育の機会を確保するための生活介助員や学級支援のための特別支援教育補助員を増員いたします。

また、ハード整備として啓西小学校統合プール、新たな学校給食調理場など、教育関連施設整備も進めてまいります。

最後に、「安全安心で人にやさしい暮らしをまもる」につきましては、災害などへの備えのため、避難場所の整備や化学消防車の更新、食品放射線測定機器や応急給水車両の導入などを行うほか、公共施設の耐震化を進めるため、公立保育所や児童会館、消防出張所、上下水道施設などの耐震補強を実施します。

また、障害者等の自立生活の支援として旧第六中学校跡施設を利活用した、地域支え合い体制づくり拠点事業の実施や高齢者のバス無料化による、おでかけサポートバス事業などを実施いたします。

省エネ・新エネの推進につきましては、公共施設の省エネルギー化のほか、企業への省エネ診断補助、環境モデル地域の活動などを通じた、市民主体の低炭素型社会づくりを促進いたします。また、道路・公園・上下水道・公営住宅などの社会基盤整備を着実に進めてまいります。

以上が、平成24年度予算の重点施策の概要であります。

つづいて、「夢かなうまち！・『フードバレーとかち』の推進」をごらんください。

この資料は、平成24年度の「フードバレーとかち」の取り組みをまとめたものであります。

「フードバレーとかち」につきましては、推進プランに示しました、「農林漁業を成長産業にする」、「食の価値を創出する」、「十勝の魅力を売り込む」の3つの柱立てに基づき、取り組みを進めていくものでありますが、これに生産者や企業などの人材育成や交流、連携など、「未来を担う人を育てる」といった視点も加えながら、取り組みを行っていくものであります。

まず、「農業を成長産業にする」につきましては、「十勝型生産技術基盤の形成」として、生産現場における食の安全・安心に関する取り組みなどのPR事業、「有機資源循環システムの構築」として、良質堆肥生産に向けた堆肥施用の効果試験、「飼料自給率向上対策事業」としてコントラクターへの支援を行います。

「食の価値を創出する」につきましては、「企業間マッチング・フォローアップ事業」として、農商工連携による付加価値の向上に加え、十勝の企業をつなぐ視点も加えた事業のほか、「黒毛和牛生産振興事業」として、地域団体商標に登録された「十勝和牛」の素牛生産マニュアルに沿った、より質の高い巡回指導や地域ブランド向上のための生産活動支援を行います。

「十勝の魅力を売り込む」につきましては、「東アジア市場等展開支援事業」として、中国のみならず、シンガポールや台湾などの地域にも対象を広げ、海外での取り組みに意欲のある企業へ支援するほか、首都圏の都市生活者を対象に、広告やメディアを活用した「十勝」のイメージアップ戦略や「食と環境・国際フォーラム」の開催支援などを行います。

「未来を担う人を育てる」につきましては、「フードバレーとかち人材連携強化事業」として、生産者と商工業者が調査活動等の取り組みを共同して進めることによる、将来の農商工連携の素地づくりや、「フードバレーとかち人材育成事業」として、企業の事業意欲や経営能力を高める研修を帯広畜産大学と共同で実施するほか、「本州食品関連企業等との連携促進」として、本州の食品関連企業等と管内生産者との連携による生産現場や生産者への理解促進など、新たな応援企業をつくるためのアプローチをしてまいります。

「プラットフォームによるコーディネート機能の発揮」につきましては、「北海道フードコンプレックス国際戦略総合特区」構想の推進管理及びマネジメント機関を設立し、道内特区3エリアにおける食関連産業の振興・発展に寄与してまいります。

また、これまでと同様に「フードバレーとかち」を視点として、環境モデル都市推進事業、農業生産環境を支える自然環境の保全や、生産・加工・物流を支える社会基盤整備、豊かな食文化の創出の基礎となる食育推進事業などを、「フードバレーとかち」を下支えする施策として位置づけるほか、開拓 130 年・市制施行 80 年記念事業での食と農林水産業を活かした各種イベントにおいても、「フードバレーとかち」を推進する機運を高めてまいりたいと考えております。

以上が、「フードバレーとかち」の取組であります。

最後に予算規模につきましては、

一般会計は、	783 億 4,500 万円	であり、前年度対比 2.5%の減、
特別会計は合計で、	436 億 8,732 万 1 千円	であり、前年度対比 2.2%の増、
企業会計は 2 会計で、	140 億 2,604 万 4 千円	であり、前年度対比 10.8%の増、
全会計で	1,360 億 5,836 万 5 千円	であり、前年度対比 0.2%の増

となっております。

なお、各会計別の予算規模及び事業の詳細につきましては、お手元の資料をご覧いただきたいと存じます。

以上が、平成 24 年度予算の概要であります。これらの予算につきましては 3 月 1 日招集予定の議会に提案し、ご審議いただくことになっております。